

表現

七月號

露伴日記

私の愛讀書
回答百家

座談會
日本文學の諸問題

釋・三好
日夏・神西

歴史的必然性と
主体的行動

宇野弘藏

角川書店

昭和二十三年九月十四日
昭和二十四年三月十八日
第三種郵便物認可
第五二二號行

第二卷第六號（毎月一回一日発行）

頭痛に



テーリン

和光堂

あなたの頭痛を
速かに治す

化膿性疾患に！

三井化学の高級サルファ剤

スルファチアゾール錠

適應症

肺炎・疥癬・赤痢・中耳炎
大腸カタル・敗血症・丹毒
淋疾等一般細菌性化膿疾患

東京 日本橋

三井化学工業株式会社

VITAMIN B₁

疲勞恢復と

ヤシマ

栄養補給に



強ビタミンB₁錠

八洲化学株式会社
東京都千代田区神田鍛冶町三

[強カアグタミン錠]



愛讀の書物

浦松佐美太郎

今日は、いろいろの物がまだまだ不足しているが、書物だけはそうでないような気がする。月々の雑誌や新聞の廣告に出る書物を見ただけでも、随分大變な種類である。もし本屋の店頭に立てば、新聞の廣告の何倍という本が並べられているに違いない。毎月これだけのものを讀もうと思つても、到底讀み切れるものでない。本だけは確かに個人という立場から見たら供給の方が多過ぎる現象を呈している。雑誌が廢刊になつたり、出版元が潰れるという噂も無理ではないと思われる。勿論本の質から言つたら、或は讀み切れないどころでなく、讀むに耐えるものが一冊もないのかも知れないが、これはこゝでは考えないこととする。

今日の世の中は複雑な世の中である。自分の狭い知識だけでは、たとえそれがどんなに深い知識であらうとも、世の中を判斷することは出来なくなつてゐる。中國共產黨のことも知らなければならぬ。共產主義が何であるかもよく知り度いと思ふ。そうしなければ、經濟學についてもよく知り度い。それと並んで政治學についても知つて置かなければならぬと思ふ。宗教についても、佛教やキリスト教について自分の考えを定めたと思ふ。また新しい人間關係を知るためには小説も讀みたいと思ふ。第一選挙で投票するにしても、毎日の新聞記事を讀むにしても相當の知識を持たなければ、どうにもならないことがよく解る。そうしなければ、そのために讀まなければならぬ本の數だけでも大變なことになる。しかし知識人であるためには、それだけの努力は、どうしても拂わなければならぬのが、今日の世の中なのである。そんな本が

毎月出版されているかどうか、それもこゝでは問わないこととする。
愛讀書という言葉は、非常な昔に出來た言葉ではないかと思ふ。愛讀というからには、暇ある毎に取り出して、繰り返し讀んで飽きないということであらう。繰り返し讀んで本の綴目が切れば、きつと文章も簡潔で解り易く、しかも、その意味する所が何とでも解釋出来るようになってゐるものでなくてはなるまい。さもないければ、世の中の進歩のテンポの遅い昔でも放り出されてしまつたに違いない。それにしても一冊の本を、極端に言えば毎日取り出して飽かぬといふような時代は、本が乏しく貴重であり高價であつた時代のことであらう。世の中の動きのテンポが早く、印刷が進歩し、紙が安くなつた時代には、こうした愛讀の書などというものは、もう出て來ないであらう。
聖書や論語を愛讀の書というのは、言葉の意味の穿き違えだと思ふ。日曜毎に聖書の頁を繰つても愛讀の書とは言えない。論語だつて同じように愛讀の書というのは可笑しい。そう言へば明治の時代に、論語と算盤などと唱えて論語はわが愛讀の書なりなどと、大眞面目に言つてゐた實業家もあつた

たようである。論語が愛讀書などと言ふのはもうあの實業家あたりで止めにしてほしい。實際に今日の世の中には、愛讀の書といふものがなくなつてゐるのだと思ふ。經濟學者が、アダム・スミスの富國論が愛讀書だと言つたり、哲學者がカント全集が愛讀の書だなどと言ふのも、よく考へて見れば可笑しなことであらう。
今日われわれが持つてゐるのは、愛讀書ではなくて好きな本ということであらう。本當に讀むものがなく暇のある時、繰返し讀んで餘しいのはこの好きな本なのである。

る。しかしそれとて、毎日繰り返して讀むのではなく、何年か経つて又讀んでも餘しくそして好きな本という意味である。この好きな本を何冊か持つてゐるということは、大變仕合せなことだと思ふ。
戦争中から今日にかけて、この好きな本を珍らしくも、何度か繰り返して讀む機会を與えられた。戦争中は本がなかつたために、今日は讀みたい本が出版されなかつたに、もし好きな本がなかつたら、私は戦争中にどんなに淋しい月日を送つたことだらうと思ふ。そして今日もし、好きな本がなかつたら私はどんなに毎日の新聞廣告を見て腹立たしい思いをすることであらうと思ふ。
愛讀の書などという古めかしいことはいらない。好きな本を、時あつて再び開いて讀めば餘しさを繰り返して味わえるような本を持つことは、人にも勧めたいと思つてゐる。私は出版書肆に、ぜひさういふ本を一冊でも餘計に出すよう努力されることを望んでやまない。なぜなら本は、著者によつてではなく、出版書肆によつて作られるものと考へてゐるからである。

たら私はどんなに毎日の新聞廣告を見て腹立たしい思いをすることであらうと思ふ。
愛讀の書などという古めかしいことはいらない。好きな本を、時あつて再び開いて讀めば餘しさを繰り返して味わえるような本を持つことは、人にも勧めたいと思つてゐる。私は出版書肆に、ぜひさういふ本を一冊でも餘計に出すよう努力されることを望んでやまない。なぜなら本は、著者によつてではなく、出版書肆によつて作られるものと考へてゐるからである。

左の質問に對して諸家の回答をいたしました。この書籍選定時代に、讀書の指針として參考になることと思ひます。とくに各年代別の愛讀の書を示していただいたことは、始めての試みであり、世代論のやまらしい戦後の今日、興味深い結果が現はれてゐると信じます。編輯部

貴方の愛讀書は

- 一、二十歳以前（少年時代）には
- 二、二十代（青年時代）には
- 三、三十代には
- 四、四十代には
- 五、現在には
- 六、各年代を通じての座右の書は

- 經濟學者 小泉 信三
- 一、押川春浪。二、即興詩人。
- 三、資本論。四、五、福澤諭吉、陽外、漱石。

哲學者 阿部 次郎

- 一、落合直文小中村義象著「歴史讀本」、島崎藤村「若菜集」、Goethe: Sorrows of young Werther。二、新舊約聖書、ラトシ「對話篇」、トルストイ「論文及小説」、Goethe: Faust. (以上其後に繼續す) 晩年の楊牛、内村鑑三、清澤滿之、上田敏「文藝論集」。
- 三、Nietzsche:

- Zarathustra; Lipps: die ethischen Grundfragen, Dante: Divina Commedia; Dostoevsky: Brothers Karamasov. (以上繼續) 四、芭蕉、宗祇、萬葉集、杜甫詩集、法然上人全集、五、上記の繰返し。六、聖書、國譯大藏經、ゲーテの「ファウスト」及「詩集」、萬葉集、「杜工部詩集」、芭蕉七部集、法然上人全集、道元禪師全集、佛傳涅槃篇(佐々木月樵編) 其他。

作家 堀 辰 雄

- 一、犀星、朔太郎、春夫とフラス象徴派(とくにレニエ、サマン、ジャム等)の詩を愛讀す。二、龍之介の晩年の作品、コクトオ(とくに「ミステル・ライク」頃のもの) ついでブルウストを愛讀す。三、リルケ全集

アンケート

とモオリヤツクの小説。
四、戦中は源氏物語と折口信夫の「古代研究」ならびに再びブルウスト。五、大患のため骨の折れる讀書が出来ず。よくなつたら芭蕉七部集とヴァレリイを熟讀したいと思ふ。六、仕事をするとはいいつも鵜外の翻譯か小説を座右においてゐる。

哲學者 前田 陽一

一、雑多。二、「内村鑑三全集」「藤井武全集」「ブラウニンダ詩集」。三、ベルグソン「道德と宗教との二源泉」「アウグステイヌス」「告白」。六、「聖書」、パスカル「パンセ」、内村鑑三隨筆集。

詩人 高村光太郎

一、國史眼、史記、八犬傳等。二、物語もの、萬葉集、八代集等。三、ロダン、ホキットマン、エルハアラン等。四、ベルグソン、ロマン・ロラン、ヴァレリイ等。五、座右に書籍乏しく、手

あたり次第。六、聖書、佛典、ロダン等。

作家 岸田 國士

一、特別になし。二、ルソー「懺悔録」、シャトوبرリエン「ルネ」「アタラ」、ツルゲーネフの作品。三、バルザックの諸作、ミユッセルの戯曲、ルナアルの諸作、アナトール・フランスの鳥料理「ヌベトック」。四、モンテニエの隨想錄。五、カザノヴァ回想錄。六、特別になし。

評論家 河上徹太郎

一、少年雜誌。二、ヴェルレーヌ、ボードレール、シモンズ。三、ジイド、ヴァレリイ。四、（現在は）特になし。六、右のうちの或るもの。

作家 平林たい子

一、倉田百三、江馬修、藤村、トルストイ、ゴンチャロフ、クヌート・ハムスン。二、ジャック・ロンドン、ゴルススワージー、ビョルンソン、クーパーリン、

ゴルキー、イブセン、レニン、ブレハノフ、ブハリン。三、トルストイ、ゴーゴリ、二葉亭、シチエドリ。四、シュテファン・ツワイク、スタンダール、ドストエフスキ。六、トルストイ。

哲學者 山内 得立

一、大町桂月、二、樗牛全集、丘淺次郎「進化論講話」。三、ドストエフスキ。四、プラトン全集。五、西田幾多郎全集。六、カント三批判書、歎異抄。

哲學者 串田 孫一

一、フランシス・ジャム「櫻草の喪」。二、アミエル「日記」。三、「コラン」その他の聖典類。五、寄贈本をすべて愛讀してゐます。六、モンテニエ「エッセ」。

經濟學者 大内 力

一、二、亂讀をしただけでとくに愛讀書というほどのものはありません。強いて求めれば萬葉

集でしょう。三、資本論。四、將來はわかりません。しかし多分資本論でしょう。五、資本論。六、資本論。

評論家 平田次三郎

一、ありません。亂讀でした。二、この期も亂讀ですが、強ひてあげれば漱石の作品。五、やはり亂讀です。六、以上の如くですから座右の書といふやうな書物をあげません。

哲學者 鬼頭 英一

一、近松「天網島外」、イブセン「幽霊」、ストリントベリ「ダマスカスへ」、トルストイ「生けるしかばね」、闇の力。二、フツセル「純粋現象學考案」。三、ハイデッガー「存在と時間」。キエルクゴール「哲學的斷片後書」。五、カントの諸著。六、ナシ。

神學者 松村 克己

一、西田天香「懺悔の生活」。二、三木清「パスカルに於ける人間の研究」。三、パスカル「パ

私の愛讀書

英文學者 野口 啓祐
一、（十七、八の時分より）トルストイ「クロイツェルソナタ」その他短篇。二、クリストファ・ドウソンの諸著。三、ブジュラ編「ニューマン宗教體系」。ウオード・ニューマン傳。五、バトラ・アナロデー。オブ・レリデオン。
劇作家 戸板 康二
一、十五少年。二、即興詩人（鵜外譯）。三、戦争と平和。六、「海やまのあひ

ンセ」、波多野精「時と永遠」。
四、五、聖書に關するもの。註釋書その他。六、聖書。

宗教家 北森 嘉藏

一、薄田泣菫「草木蟲魚」、ケイベル博士「小品集」、内村鑑三全集。二、田邊元「哲學通論」、バルト「神の言と神學」。五、波多野精「時と永遠」、カルヴィン「基督教綱要」。六、聖書の外にはルターの諸著。

だ、「雪國の春」、綠雨全集。

獨文學者 手塚 富雄

あんまり、きつかり分けて答へることはできませんが、若い時はラフカディオ・ヘルン、雨月物語などが好きでした。ついでゲーテ、シェークスピアがわかり出して來ました。各時代を通じて良寛詩歌、淵明集、論語などは大好きです。ヘルデルリンには肌が合ふやうな氣がしてゐます。

法學者 末 川 博

幼いときから二十歳前後までは田舎で育つたので、これという書物を讀んだことがなく、高等學校時代には濫讀し、それからあとも特定の愛讀書というものはありません。私の性分なのかも知れませんが、とにかくこれという座右の書はもちろん、愛讀書はない有様です。おそらく一生をういうものは持ち得ないかと思ひます。

經濟學者 大熊 信行

一、啄木「悲しき玩具」。二、カーライル、エマソン、ラスキン、トルストイ、ドストイエフスキ、ゲーテ。三、アダム・スミス「國富論」。四、おろかにも自分の著作を最も愛讀す。五、ロビンソン「人間喜劇」、同「精神の形成」。六、辭書と人名簿以外になし。

歴史學者 岡崎 三郎

専門の歴史關係のものをべつにして、
一、有島武郎と大杉榮の著作。二、フランス自然派の諸作、特にフロベール、なかでも「感情教育」。三、右にはほぼ同様、一時ジイド。五、アナトール・フランスとバルザックの諸作。六、マルクスとエンゲルスの諸著。二〇歳ころから、たゞし戦時中は敬遠してゐました。

國史學者 家永 三郎

一、藤村詩集、漱石「鵜籠」等。二、田邊博士「科學概論」、美

濃部博士「憲法概要」。三、津田博士「文學に現はれたる我が國民思想の研究」等。六、歎異抄、バイブル、源氏物語等。以上は僅に一端を擧げたに過ぎません。私には愛讀書や座右の書が多過ぎて到底はがきなどには書き切れないのです。

佛文學者 河盛 好藏

（日本の作家の名だけをあげます）
一、藤村詩集、白秋詩集。二、佐藤春夫の全作品。三、漱石、鵜外、露伴。四、五、もう愛讀書といふものがなくなつてゐます。本を讀むことが仕事になつてしまひましたから、強ひてあげれば鵜外でせうか。六、残念ながらそんなものはありません。

物理學者 菅井 準一

一、ロマン・ロラン「ジャン・クリストフ」。二、聖書、パスカル「パンセ」。三、レーニン「唯物論と經驗批判論」。四、

アンケート

ゴリキイ「文學論」と諸作品。六、寺田寅彦の諸隨筆集。

法學者 田中耕太郎
(専門書を除く)

- 一、八犬傳から薔花、漱石。
- 二、即興詩人、アイヘンドルフ、ハーフ、トルストイ、ドストエフスキー、シルレル、ロマン・ロラン、内村鑑三。
- 三、ソロヴィヨフ、プラト。
- 四、アリストテレス、ソロヴィヨフ。
- 五、ソロヴィヨフ、ドーソン、ニューマン、マリタン、ツァイク。
- 六、聖トマス、ソロヴィヨフ、ドストエフスキー。

評論家 西坂 志保

これといつて時代によつてきまつた書物はない。
一、日本の古典、特に平安から鎌倉時代のものを讀み、二、英文學と哲學書を多くよみ、それから今日までは何んでも手當り次第に讀んで、感銘するものもあるし、しないものもあるが、何

か學んでゐる。
作家 上林 曉
一、薔花、芥川、菊地、有島。二、芥川、有島、マン、木下圭太郎。三、川端、カロッサ、ストア派語録。四、太宰。五、赤光。六、芥川、藤村。

詩人 草野 心平
一、ありません。二、特に一つだけあげるとはむづかしいです。三、おなじく。四、おなじく。五、おなじく。六、ありません。

學問院員 安倍 能成
一、八犬傳。二、ウェルテルの哀しみ。三、スピノザ。四、カント、プラトン。五、論語、アウレリウス「自省録」。六、一燈を提げて暗夜をゆく、暗夜を憂ふる勿れ、只一燈を頼め(佐藤一齋の語)

作家 尾崎 一雄
一、前期、冒險小説。後期、文

藝雜誌。二、志賀直哉第一小説集「留守女」。論語。チエホフ作品集。萬葉集等。三、濫讀。四、手當り次第。五、主として宗教、思想に關する古典。六、志賀直哉の作品。齋藤茂吉の歌。萩原朔太郎の詩。

日本放送協會員 古垣 鐵郎
一、トルストイの作品。二、ドストエフスキーの作品。三、カール・マルクスの作品。四、フレイリッヒの作品。五、變化なし。六、カール・マルクス「衣服哲學」。

哲學者 天野 貞祐
一、三國志。二、ヒルティ幸福論、内村鑑三諸著、福澤諭吉自傳其他。三、カント諸著作。四、同上及びヘーゲル法哲學。五、同上及び四書特に論語中庸。六、聖書、カント諸著作、論語。

佛文學者 佐藤 輝夫
一、ギリシア・ローマ史(譯著者不明)。二、舊約聖書。三、ラ

シーヌ、フランソワ・ヴィヨ。四、モンテニエ。五、ギリシア悲劇を讀みたいと思ふ。六、思ひあたらず。

失名氏
一、ドストエフスキーの作品、特に「惡魔」「罪と罰」「カラマーゾフの兄弟」二、マルクスの著作、就中「ヘーゲル法哲學批判」「資本論」三、スターリン「レーニン主義の諸問題」四、Ruth Fischer: Stalin and German Communism 五、夏目漱石、河合榮治郎の著作。

哲學者 佐藤 信衛
一、數學の教科書類。(あまり讀まない少年でした)。二、言志錄。三、臨濟錄。(右二つはたぶんほんたうの意味は解りませんでした)が、常に座右の書でした。五、なし。

作家 中村眞一郎

一、トルストイの小説。二、ブルウストの小説、ベルグソンの

哲學。五、バルザックの小説とサント・ブヴの批評。六、源氏物語(と新聞)。

詩人 日夏吹之介
I. Juveniles. II. Novels. III. Essays. IV. Classics. 六、和漢洋古典書類許多。

佛文學者 桑原 武夫
一、通俗三國史。二、三アラシ、スタンダールなど好んでよみました。三、子供のときから難讀亂讀で、愛讀書というものは殆んどありません。四、(現在)もうそろそろものをよむ必要はないと思つてゐます。六、ありません。

政治家 鈴木茂三郎

これといつて、座右に置いた愛讀の書といふほどのものがございません。五十六歳になった今日も同様であります。

詩人 神保光太郎

一、アンデルセン、白秋詩集有本芳水詩集等。二、「エルテル」ジャン・クリストフ「芭蕉等。三、ニイチエ、スピノザ、ヴェルフェル、サンタヤナ等。四、五、ゲーテを讀みかへしてゐます。六、「ヘルテル」「アラビアンナイト」芭蕉等。

作家 加藤 周一
一、芥川龍之介全集。二、萬葉集。五、李長吉歌詞。六、日本語譯聖書。

評論家 吉田 健一
一、アンデルセンの童話、カアライルの「サアター・レザアタス」ゲエテ「ファウスト」第二部。二、ダレリイの評論、ラフォルグの詩、小説、「千夜一夜」。三、ダレリイの評論、「千夜一夜」、岡本綺堂「半七捕物帖」、矢田挿雲「太閤記」。五、中島敦の小説。六、河上徹太郎「自然と純粹」「現實再建」。

哲學者 梅本 克己

一、山村暮鳥「雲」。二、正法眼藏隨聞記、歎異抄、ジャン・クリストフ。三、カント、ヘーゲル、マルクス等の諸著作の一部。時には序文だけ。四、(未だ経験しませんが)五、スターリン「レーニン主義の基礎」「十月革命への道」六、山村暮鳥「雲」。

作家 北原 武夫
一、文章規範、鏡花、潤一郎。二、コクトオ、ブルウスト、ジツド、西田幾多郎。三、アラン、論語、パスカル、デカルト。五、ドストエフスキー、アラン、日本史書。六、論語、聖書。

作家 富士 正晴
一、「西遊記」「アンデルセン童話集」。二、「未成年」「アルマンス」竹内勝太郎の著作。「テスト氏」「昆虫記」。五、ウルフ「オーランド」、ムンテ「ドクトルの手記」、キエルケゴール「死にいたる病」、ガーネット「狐になつた奥様」、ストレイチー「エ

リザベス女王」
國文學者 岡崎 義恵
一、即興詩人など。二、白き手の獵人など。三、餘りに多い。四、五、同右。六、なし。

西洋古典文學者 吳 茂一
澤山で勿論はつきり言へませんが強い求めて、
一、ヴェルレーヌ詩集。二、ドストエフスキー「白痴」。三、ホメロス「イリアス」。四、ニイチエ「ツアラトラウストラ」。五、アリストパネス喜劇集。六、新約聖書、プラトオン。

評論家 浦松佐美太郎
哲學の徒、あとからあとからと本を讀んで来ただけです。讀みかけて理解出來ず、何年後に又讀み出してやつと理解した本もあります。しかし、これ一冊を愛讀したり、座右に置いたりした本はありません。本といふものが手に入りやすくなつたのでせう。

ア ン ケ ー ト

作家 三島由紀夫
「ラディゲ」「ドルヂェル
伯の舞踏會」二、「ドラク
ロアの日記」六、上田秋
成全集。

英文學者 福原麟太郎
「江見水藤」「今辨慶」。

二、デューゼフ・コンラッド。
三、特に覚えて居りません。
四、チャールズ・ラム。五、シ
ニクスピア。六、ありません。

評論家 岩上 順一

「トルストイの種々の作
品、國木田獨歩」「武蔵野」其他。
二、マルクス「資本論」其他。
三、ゲーテの諸作品。四、五、
ペリンスキーやドブローニョボ
フ、その他ロシア批評家の諸著
作、マルクス、エンゲルスの著
作。

獨文學者 番匠谷英一

「國木田獨歩。當時博文館か
ら出た最初の「獨歩全集」を耽
讀しました。二、藤村の「春」。

節の「土」。三、ヘッベル。ス
トリンドベリ。源氏。四、ゲ
ーテ。五、ことさら挙ぐるもの
なし。六、聖書。萬葉集。

評論家 佐々木基一

「中學に入つたばかりのとき、
芥川龍之介が自殺したので、何
故ともなく芥川のことを身を入
れて讀みました。それからツル
ゲーネフ「父と子」二、ドスト
イエフスキー「悪魔」。ヘーゲル
「美学」。マルクス「資本論」。チ
エホフ後期の作品。トオマス・
マン「魔の山」。志賀直哉「暗夜
行路」。五、モンテニエ「隨想
錄」。フロマンタン「ドミニク
」。石川洋の作品。エッセイ。
六、モンテニエ「隨想錄」。サ
オルテール「カンデイド」。ザ
アレリイの諸論文。ハイネ「ル
テツィア」。鵲外の歴史物。魯迅
の隨筆。

宗教家 阿部 行藏

「トルストイ」「我ら何をなす
べきか」。河上肇「貧乏物語」。

二、「フオイエルバッハ」「將來の
哲學」。マルクス諸書。バルト
「ロマ書」。三、カルヴァン「基
督教綱要」。五、バルト「教會的
教義學」。六、聖書。

獨文學者 谷 友 幸

「僕らの愛讀書はありません。す
べて亂讀です。
一、犀星、白秋、朔太郎の詩歌
集。探偵小説など。二、トルス
トイ、ドストエフスキー。フラ
ンツ・ヴェルフェルをはじめ表
現主義作家たち。トーマス・マ
ン。泡鳴、鏡花、秋聲。三、ホ
フマンスタール、リルケ、ニー
チエ、ヴァクナー、レツツング。
四、來年のことをいへば鬼が笑
ひませう。五、三十代最後の年、
ヘルデルリン。吉川善之先生か
らいただいた杜甫詩集。六、カ
ロツサは大樹の蔭といつてゐま
すが、僕の亂讀の憩ひの場所と
してゲーテ。この氣持は年とと
もに深まるやうです。

佛文學者 井上 究 一郎

一、薙花「自然と人生」。啄木
歌集。白秋詩集。二、上田敏永
井荷風。鈴木信太郎。山内義雄。
堀口大學諸先生によるフランス
譯詩集。直哉・康成・梶井・三
好・堀・小林秀雄の作品。三、
四、五、デカルト「方法叙説」。
ヴァレリー「ヴァリエテ」。ボー
ドレール「惡の華」。ブルースト
「失はれた時を求めて」。辰野陸
先生「フランス文學上・下」。九
鬼周造「文藝論」。深田康算全集
卷四。六、「源氏」及「古事記」。鵲外。
藤村・ボードレール・フロローベ
ールの作品。

歴史學者 つださうきち

「僕は今まで特別な愛讀書とい
ふものをもつたことがありませ
ん。

詩人 丸 山 薫

「谷崎潤一郎氏の作品。二、
ボードレール「惡の華」。三、ボ
ードレール「巴里の憂鬱」。四、
カロツサ及リルケの作品。五、
特になし。六、特になし。

失 名 氏

一、立川文庫、夏目漱石。二、
芥川龍之介。三、森鷗外、ト
マス・マン。五、東京地圖（地
圖を眺めるのが好きです）

哲學者 高桑 純夫

一、高山樗牛のもの。二、新カン
ト派とカントの純理批判。三、
アウグスチヌスの神國論、初期
哲學論文。四、モンテニエ隨
想錄、ロダンの言葉。五、ゴー
リキイの評論。六、變つてゆく
ので答えかねます。

獨文學者 井 上 満

どの十年間にも時代の變遷に
つれて、讀書傾向にも幾變遷が
ありました。無理を承知の上で
今思ひだす最も印象の深か
つたものは、

「一、押川春浪「浮城物語」。
二、北原白秋「思ひ出」。三、
ブーシキンとネクラソフ
の長詩。四、コロレンコの
「ある現代人の話」。五、エ
レンブルグの「嵐」、パノー

ワの「クルジエリハ」、ソヴェ
ート戯曲、特にゴルネイチユー
ク、シーモノフ、ソフロノフ
の作品。

畫家 里見 勝藏

「一、エルテルの悲み、懺悔録（ル
ツ）。二、トルストイ、ドスト
エフスキー。三、ゴッロキ、モー
パッサン、バルザック。四、芭
蕉、萬葉集。五、以上の本は今
日でも好きです。六、同上。

哲學者 矢崎 美盛

「一、三國志、漢楚軍談、吳越軍
談、ロビンソン・クルソー、ギリ
シャ神話といったものを愛讀し
ました。二、文藝や哲學のものを
を亂讀しました。三、四、古典
か、哲學、美學、美術史關係の
ものを、いくらか系統的によむ
様に心がけました。五、右に同
じですが、随分亂讀してゐます。
六、特に座右の書はありません
が、傳記物、旅行記など、子供
のときから好きです。

失 名 氏

「一、藤村詩集、海潮音。二、「ア
ウススト」第一部。三、「アン
ナ・カレニナ」。四、ゲーテ「西
東詩集」。五、ギリシャの詩を
ドイツ譯でよんでゐます。六、
ゲーテの著作、舊約聖書。

評論家 本田喜代治

二十代までは、たとえば、薙
花、漱石、ドード（サフォ）、
谷崎、アルツイバーシエフその
他いろいろありましたけれど、
それ以後は特に「愛讀書」とい
うようなものはありません。本
を讀むことが「しごと」のよう
になりましたので。東洋や日本
や西洋の古典をゆつくり「愛讀」
できる時間があればよいと、た
まには考へないこともありませ
んが、それはわたくしの生涯中
では、出来ない相談かもしれま
せん。

詩人 田中 克己

「一、芥川龍之介のもの。二、佐
藤春夫のもの。三、李白と杜甫。

五、森槐南著「唐詩選評釋」。
六、バイブル。

獨文學者 米川 正夫

「一、十四五歳 新聞の讀物（半
井桃泉など）。十七八歳「思出
の記」「獨歩集」。二葉亭の翻譯
物等。二、二十一、二歳、島崎
藤村、永井荷風、森鷗外、夏目
漱石等。三、志賀直哉、芥川龍
之介、ブーシキン。四、谷崎潤
一郎、アナトール・フランス、
バルザック、スタンダール。五、
西鶴「古事記」。六、聖書。しか
し、小生は常に長篇翻譯に忙殺
され、概して讀書の時間は少い
のを憾みとします。

哲學者 野田 又夫

「一、演義三國志。二、プラトン
「バイドン」。三、バスカル「バ
ンセ」。

言語學者 金田 一京助

「一、「花紅葉」「若菜集」。二、
「獨慈哀歌」ハイネ、ロゼツチ。
三、柳田さんもの。四、柳田さ

アンケート

んもの。五、有坂秀世「國語讀史の研究」。六、論語、バイブル。

評論家 高橋 健二
一、高山樗牛、徳富蘆花。
二、親鸞、倉田百三、シラ
ー、ハイネ、ゲーテ。三、
ヘッセ、カロッサ、ゲーテ。四、
五、ヘッセ、ゲーテ。六、聖書、
ゲーテ詩集、ハイネ詩集、ゲー
テ傳。

評論家 荒 正 人
十代の終り頃からマルクス主
義文獻に接し、それは現在にい
たるまで「愛讀書」になつてゐ
ます。それよりもいくらか早い
時期に接した「聖書」は或る
意味での「座右の書」になつて
ゐます。少年時代には「四福音
書」、青年時代には「創生記」、
三十代には「黙示録」、現在は
「ヨブ記」などを我流によんで
ゐます。

歴史學者 村川 堅太郎

特に愛讀書と言ふ程のものは
ありませんが時代の選擇を経て
生き残つた古典的なものと言ふ
方針で居ます。

作家 大岡 昇平
一、佐藤春夫「田園の憂鬱」。
二、ランボオ詩集、ジード「質
金つくり」。三、スタンダール
「バルムの僧院」。四、ゴーゴリ
「死せる魂」。五、岡外「瀧江抽齋」。
五、同右。六、「バルムの僧院」。

評論家 津村 秀夫
一、ツルゲーネフの散文詩「マ
ノン・レスコオ」。永井柳太郎著
「グラッドストーン」。徳富蘆
峰著「吉田松陰」。二、ゲーテ「ウ
イルヘルム・マイスター」。ト
ルストイ「青年時代の日記」、堀
口大學「フランシス・ジャム
詩抄」。漱石文學、「三太郎の日
記」。三、漱石文學、小宮豊隆
著「批評集」。「カラマーゾフの
兄弟」。四、ニイチエ、モオパッサ
ン。六、ゲーテ全集、漱石全
集、ニイチエ全集。

評論家 吉田 洋一
一、即興詩人、吾輩は猫であ
る。二、後藤未雄「ジャン・ク
リストフ」。ガリネット「ツル
ゲネフ」。三、アナトル・フラン
ス。四、ジェイン・オースティ
ン。五、ラシーヌ。

評論家 相良 守峰
一、徳富蘆花、藤村の詩。二、
夏目漱石、レッシング及びシラ
ーの戯曲。三、ゲーテのファウ
スト、ワーグネルの戯曲、マンの
小説。四、ドイツ中世の叙事詩、
ドイツ中世語の語學書。五、ゲ
ーテの作品、ウォルフラムのパ
ルチファル。六、ゲーテのファ
ウスト、パウルのドイツ語辭典。

哲學者 眞下 信一
私にはとくべつの愛讀書とい
うべきものはありません。左の
人々のものは、その年代に一時
没頭したことがあるという意味
にすぎません。
一、イソップ物語、立川文庫、
外國紀行書、漱石、蘆花、トル

ストイ。二、ニイチエ、ロシア
文學一般、マルクス、ハイネ。
三、ショーペンハウエル。四、
四十代の今は難讀です。六、各
年代を通じての座右の書はあり
ませんが、旅行などに出るとき、
何げなしに持つて行きたくなる
のは、今でもトルストイやトワ
ルゲーニエフなどのものです。

英文學者 矢野 峰人
一、「邪宗門」「廢園」。二、「海
潮音」「珊瑚集」。三、マシュー・
アーノルド詩集。四、「マシュー・
アーノルドの論文集」。五、
聖書。六、萬葉集。

作家 野間 宏
一、漱石、谷崎潤一郎、志賀直
哉、竹内勝太郎詩集「明日」ド
ストイエフスキー「未成年」。
二、ジイド「背徳者」、ジャレ
リー「シャルム」、トルストイ
「アンナ・カレーニナ」、ジョイ
ス「若き日の藝術家の肖像」、
ロレンス「チャタレー夫人の戀
人」中野重治「歌の別れ」。三、

花田清輝「復興期の精神」、ゴ
リキー「私の大學」、バルザック
「ゴリオ爺さん」、ゲーテ「情熱
の三部曲」。五、シュタインベ
ック「怒りの葡萄」

佛文學者 山内 義雄
一、荷風「あめりか物語」、上田
敏「海潮音」。二、岡外、荷風の
作品、ボードレール、スタンダ
ール、ドストイエフスキー、イ
ブセン。三、四、五、雜讀。六、
ボードレール「覺書」「赤裸の
心」。芭蕉「嵯峨日記」。

中國文學者 増田 涉
特に愛讀書と云へるものはない
のですが、印象に残つてゐる
ものを考へてみると、
一、どうも考へつきませ
ん。二、二十代の初めごろ
には佐藤春夫の詩、ツルゲ
ネーフの「獵人日記」、トル
ストイ「我等何を爲すべき
か」等。三、二十代の終り
ごろから三十代には、主と
して中國の文學書、就中魯

私の愛讀書

迅のエッセイ等。四、四十代の
はじめころには「史籍輯覽」など
國史關係の筆記類、これは感銘
といふやうなものは受けなかつ
たが、自國の歴史を知る上に役
に立つたやうに思ふ。五、現在、
四十代の後期にあつますが、最近
面白くまた感心して讀んだのは
レマルクの「凱旋門」です。六、
ありません。

作家 窪田 啓作
一、アラビアンナイト、森鷗外
著作（翻譯を含めて）。二、新
古今集、ヴァレリーの諸作品、
ハンス・ケルゼン純粹法學に關
する著作。五、シャルル・デュ
ボス「日記」「近似値」。

評論家 龜井勝一郎
一、徳富蘆花のもの。二、ゲー
テの諸作とマルクス。三、日本
書紀、平家物語、徒然草、内村
鑑三。五、歎異抄、モンテーニ
ユ隨想錄。六、エツケルマン
「ゲーテとの對話」。歎異抄。

佛文學者 水野 亮
一、漱石。二、岡外。三、鏡
花。四、露伴。五、藤村。六、
バルザック。

作家 鹽谷 贊
一、刺青。二、夜の繪巻。五、
運命。六、萬葉集、七部集。

評論家 大野 俊一
一、濫讀時代で特別の愛讀書を
記憶しません。二、シュニッツ
ラーの作品。三、E・R・クワ
ルティウスのフランス研究書。
四、W・シュミット、W・コッ
パース共著「民族と文化」。五、

右に同じ。六、ロマン・ロラン
「ジャン・クリストフ」。

歌人 吉野 秀雄
一、徳富健次郎のもの。「福翁
自傳」。二、漱石全集。三、
四、「萬葉集」他日本古典文學。
「子規全集」「岡外全集」「論語」
「老子」「唐詩選」「芭蕉全集」
「蕪村全集」「露伴全集」「良寛
全集」「歎異抄」。ゲーテ、トル
ストイ、スタンダール、バルザ
ック、ハアデイ。五、「萬葉集」。
六、「萬葉集」「竹乃里歌全集」
「竹里歌話」齋藤茂吉のもの。

評論家 佐藤 通次
一、グリム。アンデルセン。太
平記。平家物語。聖書。二、岡
外特に翻譯。ゲーテ。シレル。
三、クルーゲ、パウエル等のドイ
ツ語學辭書。ゲーテ。シレル。
四、大言海。説文。文字系。國
典。漢籍。ゲーテ。シレル。五、
私も生涯の秋の時期に入つたと
思ひますので、今までの愛讀書
からいろいろの形で學問の實の

アンケート

りを得ようと志してあます。六、鵬外。聖書。四書。ゲーテ。シレル。

有島 曉子

一、藤村「ふるさと」アミ
テイス「クオレ」武郎「生
れいづる悩み」トルスト
イ「アンナカレニナ」二、シャ
ルドンヌ「エワ」ブルスト「書
簡集」三、セヴキニ「娘への
手紙」クロオデル「信仰への苦
悶」アウグステイヌス「告白
録」五、聖書「アケンピス」イ
ミタシオ

作家 豊田 三郎

一、ドストエフスキー「カラ
ゾフの兄弟」二、罪と罰、ルツ
ン「懺悔録」三、トルストイ
「父の作品」四、ノヴォリス「青
い花」武小路實篤の作品。
三、鵬外全集、秋聲全集、カ
ロツサの作品。五、舊約聖書を讀
むつもり。六、書物を保存しな
い悪癖があるので、二十歳以前
から持ちつづけたものは、ゲー

テ詩集、和漢名詩類選譯釋ぐら
ゐしかありません。

国文学者 高安 國世

一、少年時代「クオレ」「アン
クル・トム」「トム・ソーヤー」
青年時代「中川一政」「見なれざ
る人」「ヴェルテル」「漱石、多
彦、萬葉集、子規、左千夫、節、
茂吉等。

二、グンドルフ「ゲーテ」、ト
マス・マン「トニオ・クレーガ
ー」「魔の山」等、ロマン・ロー
ン「ジャン・クリストフ」、ハ
プトマン「寂しき人々」、ジ
ド「一粒の麥地に落ちて死なず
ば」、鵬外「舞姫」「雁」、志賀直
哉、リルケ「ロダン」「マルテの
手記」、歌集「土屋文明、吉田
正俊」三、(現在)クルティウ
ス、大野俊一「現代ヨーロッパ
に於けるフランス精神(殊に
ブルースト論)」カロツサ、リ
ルケ、アクセルムンテ、歌集「土
屋文明」「山下水」近藤芳美「早
春歌」「埃吹く街」六、萬葉集、
ゲーテ全集、リルケ全集、カ
ロ

ツサ全集、鵬外全集。

作家 伊馬 春部

一、父の蔵書に、その頃の袖珍
本で漱石・藤村の類がたぐさん
あつたので、立川文庫を借りず
にすんだ。二、「人間嫌ひ」「子
規全集」三、ゴッティと井伏
鱒二。五、「太宰治全集」六、
「日蓮萬葉」と「遠野物語」「釋
道空短歌集」。

歴史学者 林 健太郎
折角のお問合せですが、小生

松浪信三郎譯

アラン 宗教論

豫 三〇〇圓價

矢内原忠雄
聖書講義

創 世 記

エ 世 記

マ 世 記

示 世 記

録 世 記

二五〇圓
二八〇圓
二八〇圓
二八〇圓
一送 40 圓

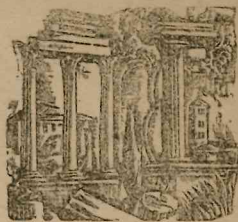
角 川 書 店

愛讀書として特にとりたてゝ云
ふべきものありません。

聖書学者 嘉治 眞三

御質問を頂いてから色々考
へて見ましたが、仕事のために
讀んだ本以外では各年代別
に愛讀書を申上げることは困難
です。唯、各年代を通じて最も
度々讀み、又今も時々讀むのは
森鷗外氏の諸著作です。その中
で初めは翻譯物に、中間では創
作に、三十代過ぎた頃からは傳
記物に興味を感じます。

巴里通信



戦後のフランス文壇

時のクロオデル

キク ヤマタ

ポール・クロオデルには十年前、彼の家
のレセプションで會つた。その時の彼は就
のやうに白かつた。傍で夫人が彼の耳もと
に口を寄せ、客の名を囁いてゐた。わたし
は、おつおつとしながら何かわたしの運命
を支配してしまふやうな、切迫した言葉が
かけられるのを心待ちに待つてゐた。

今日、この大作家の燦然たる復活をわた
しは確信する。彼の戯曲は今、二つの劇場
で上演され、芝居シーズンに壓してゐる
が、そのみではない、彼はさらに公の催
しには必ず要請される時の人である。クロ
オデルまたこれを拒まない。大使であり、
アカデミー会員であり、巴里諸祭典委員長
である彼は「巴里の大シーズンのプログラ
ム」を協議し、その催物を主宰するのであ
る。

「青年海員組合」のための慈善バザーで、
彼はジャン・ルイ・パロウと一緒にサイ
ンをしたり(「正午の分刻」)(「クロオデル、
は餘り迎へられなかつたが、今日マリ
ニイ座にかけられ好評を得てゐる。)と云ふ古い
作品について解説したりした。

ある夜の彼はギメ博物館で羽衣の初演を
後援し、それがすむと、自身、能について
ごく短い講演をした。

巴里教區が手を差し伸べた寄邊ない三千
の老人のためにカトリック救済會が開いた
宴會で、わたしは彼が巴里樞機卿の向ひ側
の席の一つに坐してゐるのを見た。このケ
ルメス終(「教區で行はれる祭」)に似た、難
た空氣の中でわたしは彼に挨拶した時、彼
は次のやうな、人のキモを抜く、だが魅力
ある言葉を語つたのだつた。「こゝには貴
方の同國の方は澤山あますか。」

この大々的な宴會が——わたしの席は一
三〇番目だつた。席の数は三〇〇以上もあ
つたらう——終りに近づくと、ポール・ク
ロオデルはやおら立つて、杯を手にし老人
たちと乾杯してまはつた。そこで、わたし
もこちらから杯をふれ合ふために、進んで
彼に加はつた。

現在、クロオデルは日本文學復興のため
に大いに盡力してゐる。彼は新しい日本、
戦後の日本を紹介してゐるわけではない
が、筆底から古い講演草稿をとり出し芭蕉
や清少納言や紫式部に關する註釋を巴里評
論誌に寄稿してゐる。これらはフランスの
讀書人のエキゾチックなノスタルジイを慰
めるに違ひない。

この様に世間的にも基督者として、大い
に活躍する一方、クロオデルはまた、彼の
戯曲の再演も後援し、俳優の演技を監督した
りする。ジャン・ルイ・パロウやビエ
ルノワールと手を握り、嬰癡たる老年期に
あつて、かつて壯年の頃書いた作品に生命
を與へてゐるのである。

今、一般の人氣は「正午の分刻」に向つて
ゐる。口さがない噂によれば、この作品は
外交官として中國に赴任してゐた時、詩人

出版だより

◇樹下緑蔭の讀書シーズンとなりました。五月に「罪と罰」「ヴェルテル」「風車小屋だより」「マリメ風流書簡」等を以て發足した角川文庫は、その上品典雅で落ち着いた装幀と、廉價と、内容の充實等が次第に讀者大衆の支持を得つつあります。海外文學の一大寶庫たらんとする理想の下に編輯が着々と進められてゐますので、御期待を乞ふ次第です。六月中の新刊としては、ステイヴンソン「寶島」ミユツセ「世紀兒の告白」「戯れに戀はすまじ」「ジャヴオットの秘密」オースティン「ノザンガー寺院」ゴッホリ「タラス・ブリーバ」メリメ「コロンバ」ユゴー「悲戀」ツルゲーネフ「獵人日記」等、健全な家庭讀物として、海へ山への携帯本として格好のものと思ひます。またトルストイ「人は何で生きるか」「光あるうち光の中を歩め」ドストエフスキー「貧しき人々」ゲーテ「親和力」ノヴァリス「青い花」等は文豪の如何に生くべきかの教訓にみちた代表作であり、詩聖アーシキンの生誕五十年を記念しては名作「スベードの女王」が刊行されます。

◇ゲーテ生誕二百年記念として、阿部次郎氏が文豪の深い學識を謝するため心血をこめて譯された「ヴァイルヘルム・マイスター・運命時代」の決定譯が出ます。これは「フアウスト」第二部と並んでゲーテの晩年の思想的圖景を代表する傑作であり、阿部氏の懇切な極めた解説と譯註とをまつて始めて理解し得べきもの、あへて好學の士の座右の書としておすすめ致します。なほゲーテ戀愛詩集三部作「選き戀人に寄す」「マリーエンバートの悲歌」「ローマ哀歌」も新刊重版されましたし、角川文庫にはゲーテの主要著作が續々と計畫されてゐます。

◇アランの「宗教論」(松浪信三郎氏譯)とバルトの「われ信ず(タレド)」(桑田秀延氏譯)の二書が、新たに譯權を獲て近刊されます。「宗教論」は八十五章の談話(プロボ)を輯めたもので、自由で柔軟なアラン獨特の思考によつて、宗教ごとにキリスト教の眞精神が描き出されます。譯文平易。バルト著作集第一回として出版される「われ信ず」は現代キリスト教神學の第一人者の主著の一つであります。二千年の傳統を有するキリスト教の廿世紀に至つて到達した極限の思想と言ふべきバルトの入門書として格好のものです。

◇好評の矢内原忠雄氏「聖書講義」は第四回配本として「創世記」をおとどけ出來ます。

『表現』

七月號

定價 六〇圓

昭和二十四年六月二十五日印刷
昭和二十四年七月一日發行

編輯者 林達夫
發行者 角川源義
印刷者 土岐佐光

印刷所 文藝堂印刷株式會社
發行所 角川書店
東京千代田區代官町二番地
電話九ノ内(23) 〇二八八
三三八二四

山本泰次郎譯

内村

ベルにお
自叙

内村先生がその心
宛てて書送つた一
の返國の眞實を發
しにも耐へて神
を如實に示してゐ
る。

定 B

通信欄		申込書	
		昭和	年 月 日
		住所	
		職業	
		氏名	
		角川書店 御中	

此の欄は加入者宛の通信に御使用下さい

小山書店

近世

近代

山内義雄編
近世文壇の巨匠たち
ツセ、バルト、
の巨匠たち、
内村、鈴木、
小林、
文壇の巨匠たち

角	川	文	庫	著者	譯者	書名	定價	送料
ブル	グ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	米川正夫	罪と罰	二六〇	四〇
グ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	原久一郎	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	佐藤通次	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	小牧健夫	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	杉村春樹	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	栗原美佐子	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	進藤誠一	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	川口他四氏	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	新庄嘉章	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	西村孝次	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	中山省三郎	罪と罰	二六〇	四〇
ミ	ミ	ミ	ミ	ドストエフスキイ	神西清	罪と罰	二六〇	四〇

書店 總町局代官町二

藤村詩集
坊っちゃん
草枕
白蛾
鶯
地主の朝

春陽堂

千各册八圓・振替東京一六一七番

二學史渡邊 秀譯
三〇〇圓 千一五圓
ノウグスチヌス
一四〇圓 千一五圓
ランシスコ
ソイェルの生涯
フンシスコ
ヒエル福音集
一六〇圓 千一五圓
版一
代思想と基督教
價二六〇圓 千一五圓

エンデルレ書店

東京千代田
麹町 673